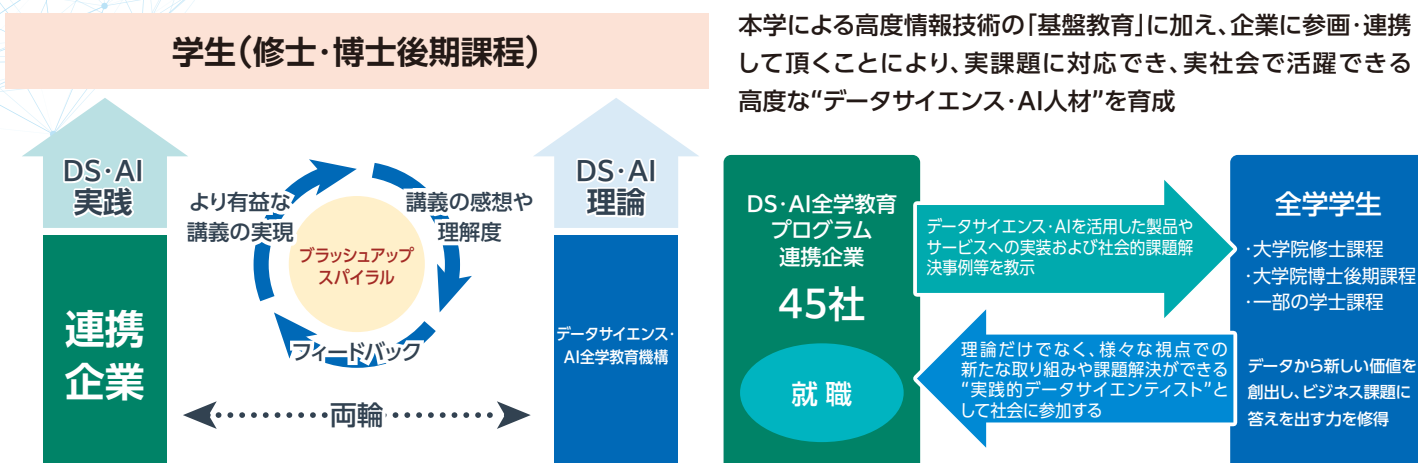


6. 企業連携



6.1. 企業の研究者や技術者による講義

本機構は、企業と共同で教育コンソーシアムを形成しており、45社の企業が、エキスパートレベルの応用系科目と実践系科目において、講義を担当しています。これらの講義は、基盤系科目の理論的な内容とは異なり、産業界の各分野におけるDS・AI技術の考え方や活用、また、企業におけるDS・AIの実装など、応用・実践的な知識や技術を学ぶプログラムです。その領域も金融系、素材系、製薬系、IT系、建築系、電子機器系、重工業系、自動車系など、幅広い分野に渡っています。いずれの講義も、第一線で活躍している研究・技術者たちが、世の中の激しい変化を生き抜く視点で講義を担当しています。コロナ禍で、オンラインでの講義を続けていましたが、2024年度からは対面の講義が中心となりました。

講義担当者からのコメント

- ・なるべく身近な事柄や、若年層から関心レベルの高いトレンド等と関連付けて説明するように心がけた。
- ・業界の特徴や課題から入ることで、全体像が理解でき、興味を持ってもらえるように留意した。
- ・なるべく具体的な事例を出し、ものづくりとデジタル技術の関連について、イメージがわきやすいようにしている。
- ・課題では、単に知識を問うものではなく、講義内容を踏まえて演繹的な思考力を問う内容を設定している。
- ・教室で講義が可能ならば、簡単な課題を投げかけて学生の考えについて議論するような機会も設けたい。

受講生からのコメント

- ・実社会でどのようにデータサイエンス・AIが応用されているかがわかり、データサイエンス・AIを利用する際の考え方が身についた。
- ・様々なビジネス分野で実用化に用いられていることを知り、自発的にデータサイエンス・AIを勉強するモチベーションを高めることができた。
- ・コーディングは勉強しないので実務能力は向上しなかったが、データサイエンス・AIの使い方が、様々な企業から学べたので、新しい視点を複数得られた。



6.2. DS&AIフォーラム

受講生たちの将来のキャリア設計に役立ててもらうことを目的として、年に2回、受講生と講義を実施した企業各社が直接交流できる意見交換会「DS&AIフォーラム」を開催しています。2024年度は、6月3日と12月2日に対面で行い、計58社の企業が参加しました。まずは各企業から自社の紹介をして頂き、次に個社ブースに分かれて、各企業と受講生のセッションを行い、対話型の交流が生まれました。受講者からは「企業の現場で実際に使われるDS・AIを知る良い機会だった」「学内に広く告知し、より多くの学生に参加できるようにすると良いと思う」などの声が聞かれました。

また、「DS&AIフォーラム」において、今年度よりインターンシップ科目に参加する企業から実習コースの案内も行いました。



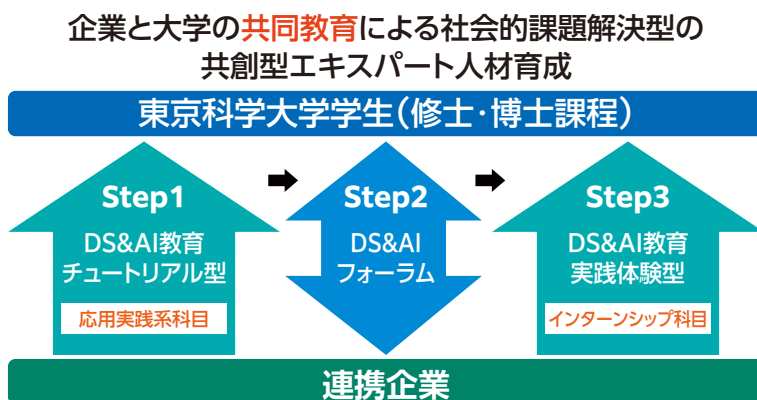
個社セッション



会場(くらまえホール)

6.3. インターンシップ科目

本機構は、企業からの教育プログラム提供(チュートリアル型の講義)に加え、2024年度からは新たに学生が講義で学んだことを各企業の研究開発の現場へ行って実践することができる単位付与型のDS・AIインターンシップ科目を開設しました。そして、年2回開催の学生と企業が交流する「DS&AIフォーラム」を通じて、講義と実践が結びつき、「講義→フォーラム→インターンシップ科目」という一連の流れが整備されました。



6.4. 企業との情報交換会

企業との協力体制を常に改善し続けることを目的として、連携企業との情報交換の場を設けています。2025年3月14日に、大学と企業、企業同士が対面で意見交換のできる企業情報交換会を行いました。今年度の講義を振り返り、学生の関心を高める工夫や理解を深める方法など、参加企業のノウハウを共有しました。また、三井不動産株式会社の矢倉和雄氏より、DXの活用事例をご紹介頂き、企業同士の意見交換を実施しました。

本機構では、来年度以降に向けた新たな構想として、PBL(Project Based Learning)による課題解決型講義の試行を検討しています。

